令和4年度　学校評価計画表（総括評価）　　五條市立五條南小学校

学校教育目標	思いやりの心をはぐくみ、深く学びやり抜く子どもたちの育成	総合評価
運営方針	子どもたち一人一人が一日の学校生活を終えた際、「この学校に来てよかった」「今日も楽しかった」と思える毎日であることを願うとともに、困難なことにも乗り越えてやりとげようとする児童の育成を目指す。自ら行動する力、困難なことにもひるまずやり抜く力を培い、また、教職員においては働き方改革を自ら推進し、楽しい学級・学校づくりに家庭や地域とも協働し、ともに喜びを分かち合える学校づくりに取り組む。	B

令和3年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標
○算数科における思考力・表現力・判断力を育成に努めることができた。 ○家庭での学習習慣を定着させるため、児童への宿題等のあり方を改善・検討しなければならない。 ○話し合う活動を通して、自治的・主体的な活動に取り組めた。 ○働き方改革を踏まえ経営改革の結果、教材研究や授業準備の時間を確保できつつある。	○主体的で対話的な学習活動の推進	○算数科を中心とした教科における思考力・判断力・表現力の向上を図るための授業改善を進める。
		○児童の非認知能力をはぐくみ、学びに向かう力の育成を図るとともに、学力向上や集団（なかま）づくりに役立てる。
	○他者をおもいやる心を持ち、ともに伸び高め合おうとする教育活動の推進	○児童一人一人の人権が最大限尊重される学級づくり・学校づくりを学校全体として進める。
		○いじめの根絶を目指し、いじめの未然防止に努めるとともに早期発見、早期解決を目指した取組を行う。
	○心身ともに、粘り強く鍛える教育活動の推進	○全国体力状況調査結果をふまえ、授業の改善を図るとともに、児童の体力向上につながる取組を継続して実践する。
	○ふるさとを愛し、ふるさとに貢献できる教育活動の推進	○地域教材を活用した授業等の取組を充実させるとともに、読み聞かせ等の地域ボランティアを積極的に活用する。

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
学習指導	思考力・判断力・表現力の育成	算数科を中心とした教科における思考力・判断力・表現力向上のための授業改善を図る(評価指標：学力調査データ)。	B	B	B	・授業の流れを統一し、構造化したことで、児童の思考を促すことができた。 ・授業では、基礎基本の定着に重点を置いているので、思考力・判断力・表現力の定着に課題が見られる。	・学習者（児童）中心の授業づくりを目指すために、教師が理由を尋ねる機会や、児童同士で理由を尋ね合う機会を増やす。また、ペアやグループ学習など協働的に学習する機会を増やす。 ・子どもたち同士の横の関係、または教材を通しての斜めの関係になる授業を展開していく。	・数値目標を明確にして、より学力の向上を図る取組を学校全体で進めていってもらいたい。 ・学力の課題は家庭学習の定着なしでは解決できないので、家庭の協力も必要である。 ・子どもたちの学力を高めることは学校の大切な役割の一つではあるが、学力だけに偏重せず、トータルで人間性を高めることが必要である。
	主体的で・対話的な学びの充実	児童による対話的な学習活動等を通して、主体的・寛容的な態度を育てる(評価指標：校内授業研究)。	B			・子どもたちがペアやグループ活動、全体発表を通して、主体的に授業に参加する姿がたくさん見られてきた。しかまだまだし教師対児童の縦のつながりの授業が多く、児童が授業に対して受け身である。		
人権教育	組織的な指導体制の構築	児童一人一人の人権が尊重される学校づくり・学級づくりを学校全体で進める(評価指標：QU検査結果)。	B	B	B	・毎月、エンカウンターを通してよりよい集団づくりができるよう、取組を進めている。QUやアンケートで見えてきた個々の内面、学級の課題を学年会やケース会議、スクリーニング会議で共有できた。しかし、その課題に応じた取組は十分ではない。	・学年部と人推部で話し合いを密にもち、学級や学年の実態に応じた取組をする。	・異年齢の交流やたて割り活動などを積極的に行って、学年を超えた取組ができている。今後も引き続き取り組んでもらいたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の定着	月別に生活目標を設定し、それが達成できるよう取組を進める。また、自らあいさつする意識を高めるとともに、規範意識の向上に努める(評価指標：児童アンケート)。	B	B	B	・今年度は、自主自律的な態度を育てることを目指し、毎月、全校朝会で担当から生活目標についての話をして、その後、各学級でもそのことについて話し合っている。その成果として生活目標を意識して生活できている児童が増えてきた。しかし、自らあいさつができる児童は少ない。ルールの遵守も徹底できていない。	・生活目標を達成できたかを振り返る機会を学級や朝会等で設け、さらなる意識付けを行う。 ・児童の些細な変化に気づくことができるよう、普段から児童の様子をよく観察し、児童との対話を大切にする。	・統合による環境の変化に、子どもたちがスムーズに馴染めるように、きめ細かな生徒指導を引き続きお願いしたい。 ・児童会を立ち上げるなど、児童が主体的に物事を考え、自分たちで学校を変えていこうとする力がついてきているように感じる。 ・先生方の取組により、各学年で他者理解が進んでいるように感じる。引き続きいじめがない学校、いじめの早期発見を目指して取組を進めてほしい。
	いじめの防止	いじめの根絶を目指し、いじめの未然防止や早期発見等の取組を行う(評価指標：いじめ解消率)。	B			・いじめの根絶を目指し、職員体制の変更、日々の見守り、ケース会議、いじめアンケート、校内いじめ防止対策委員会を行っている。学校統合して1年以上が経ち、相互理解が徐々に深まっている様子が見られる。		
家庭・地域連携	家庭との連携	幼小中が連携して、家庭での読書習慣を定着させるとともに、家庭学習の時間を増加させる(評価指標：学テ質問紙調査)。	B	B	B	・親子読書として取り組む家読の呼びかけを行った。消極的な家庭もあるが、保護者からの前向きなコメントも多い。しかし、それぞれの家庭の差が大きく、なかなか難しい面が見られる。	・家庭学習を宿題と自主学習で構成し、一定量の学習量を確保し学力の基礎を底上げできるような取り組みを継続的に進めていく。 ・中部学園としての連携をより深めていけるように、コーディネータを中心に研修を深める。 ・PSやCSをより進めていけるように、コーディネータと相談しながら働きかけ	・こ小中の連携が進んできているように感じる。しかし、地域の保育園をも含んだ保こ小中連携をさらに進めていってもらいたい。 ・公立の学童保育で勉強を教える取組は良いことであると思うが、学童を利用していないご家庭、または私立の学童を利用しているご家庭における学力保障への不公平感を危惧している。 ・学校統合2年目を迎え、徐々に地域同士の接点も増えてきている。来年度はより一層、地域連携が図れるように取り組みを進めていってもらいたい。
	幼小中の連携	中部学園としての合同研修や授業等の指導・支援の在り方など、教員間の連携を進める(評価指標：学テ質問紙調査)。	B			・各校の研究主任が中心となって、中部学園合同研修会等を行うことができている。また、家庭学習について、9年間の手引きを作成して、保護者に伝えた。しかし、まだまだ一部の教員間でのつながりが強いだけなようにも思える。		
	地域活用	地域教材や読み聞かせ等の地域ボランティアを積極的に活用する(評価指標：実施回数)。	B			・コロナ禍で難しい面もあるが、カッキークラブの方の読み聞かせは、子どもたちも楽しみにしている。いつもと違う本に触れる機会にもなり、続けて行けたらよいと思う。 ・ふるさと学習を進めているが、校区が広くなりすぎて、材の発掘が難しい。		
体力向上	体力の向上	全国体力状況調査結果をふまえ、授業を改善し、体力向上を図る。(評価指標：体力状況調査観点)。	B	B	B	・全国体力状況調査の結果をふまえ、体力向上のため、児童の興味、特性に応じた体育学習を各学年で実施している。 ・柔軟性などの学校の課題を、全体で共有して取り組むことはできていない。	・各学年の体育学習を中心に、児童の体力向上を図り、学校全体の取組も合わせて提案していく。	・五條市ジュニア駅伝で2位という結果を残すことができたことは素晴らしい。コロナも少し治まり、子どもたちが休み時間に、自由に遊べるようになってきて良かった。
働き方改革	学校運営の適正化	校内の課題共有や業務の精選等を図り、ICカードを利用して勤務時間の把握に努める(評価指標：残業時間年間360時間以内)。	B			・校務支援システムはまだ慣れてないせいもあるのか、より時間や手間がかかることが増えたように感じる。 ・学年の先生と仕事を分担し協力することで、効率的に業務を進めることができている面もあるが、まだまだ、課題共有や業務の精選が必要であると感じる。	・各部会で業務の精選を常に見直したり、課題共有を図るようにする。 ・ネット環境が、より使いやすいものになるように教委に働きかける	・働き方改革を踏まえた学校行事や業務内容の見直しと、学校・地域パートナーシップ事業との連携が、今後の課題である。

今年度の成果と次年度への課題	[成果]	[課題]
	・学校統合2年目を迎え、子ども、教師、保護者、地域も新しい学校生活にも慣れ、落ち着いて学校生活を送ることができている。統合時に危惧された人間関係や新しい生活様式への不安はほとんど見られない。 ・全国学力学習状況調査、及び各種調査テストの結果より、国語、算数ともに学力の向上が見られる。	・昨年度に比べ、少し学力の向上は見られるが、各種アンケート結果より、家庭学習の定着にまでは至っていない。 ・いじめの根絶やいじめの未然防止、早期発見に努め、一人一人の人権が尊重される学校づくりに引き続き努める必要がある。 ・学校・地域パートナーシップ事業を推進し、より一層、学校、家庭、地域が協力して、新しい学校文化を創っていく必要がある。